

研究発表大会顛末記 第 35 回国際 P2M 学会春季研究発表大会結果報告

大会実行委員長 東京都市大学 岡田公治
大会実行副委員長 千葉工業大学 下田篤

1. はじめに

2023 年 4 月 22 日 (土) に、東京都市大学横浜キャンパスにて、第 35 回国際 P2M 学会研究発表大会が開催されました。東京都市大学横浜キャンパス (図 1) では、環境学部、メディア情報学部、デザイン・データ科学部が連携して研究・教育活動を推進しており、今回の大会テーマ「SX (Sustainability Transformation) × DX (Digital Transformation) を支える P2M」に、相応しい会場だったと思います。



図 1 東京都市大学横浜キャンパス

新型コロナウイルス感染症 5 類引下げの直前の開催ですが、今回もハイブリッド型 (会場・オンラインのいずれでも参加・発表可能) での開催となりました。

2. 大会実施内容

2.1 研究発表

今回は、昨年度の大会を上回る 21 件の発表があり、A 会場 (P2M・研究開発・社会開発)、B 会場 (企業経営)、C 会場 (教育・人材育成)、D 会場 (地域開発)、E 会場 (ビジネス・国際開発) の 5トラック

並行での発表となりました (図 2～図 4)。



図 2 会場での発表の様子(1)



図 3 会場での発表の様子(2)



図 4 会場での発表の様子(3)

対面型での発表においてもオンラインでの発表においても、それぞれの発表において、活発な討論、有効な意見交換が行われました。また、大会テーマに則した発表が多数を占めた点も特徴的でした。

2.2 特別基調講演

特別基調講演「P2M Ver5.0 の提唱」では、吉田邦夫名誉会長の講演の後、亀山秀雄副会長、佐藤達男評議員による講演も行われ、今後の P2M の進化に向けた問題提起、並びに、提言が為されました (図 5)。



図 5 吉田邦夫名誉会長による特別基調講演

2.3 総会

昼休みの後、総会が開催されました。総会では、山本秀男会長、亀山秀雄副会長、久保裕史副会長らが登壇され、2022年度の活動成果報告、2023年度の活動計画等が審議・報告されました(図6)。



図 6 総会登壇者

学会表彰では、小原重信氏が学会賞を、綿木久雄氏が学会設立功労賞・学会活動功労賞を、石川千尋氏が学会活動功労賞を受賞され、山本秀男会長より、表彰状と副賞が授与されました(図7)。



図 7 学会表彰

2.4 開会挨拶と開催校挨拶

山本秀男会長から開会挨拶(図8)、東京都市大学 関良明副学長から開催校挨拶(図9)が行われました。



図 8 山本秀男会長による開会挨拶



図 9 東京都市大学 関良明副学長による開催校挨拶

2.5 基調講演

基調講演 1 では、名古屋国際工科専門職大学 山本修一郎教授により「DX (Digital Transformation) の本質と推進課題」と題した講演が行われました(図10)。DXの本質は課題解決であるが、課題解決後の姿からバックキャストできていない点、正常化バイアスがそれを妨げている点等が指摘されました。DXプロジェクトをけん引するのは、経営・事業・技術に精通しリーダーシップを発揮できる“やたがらす人材”、SDGs・DX・QCの3軸で業務を捉える等、デジタル技術面だけでなく幅広い視点から大変に示唆に富んだ内容を講演頂きました。



図 10 基調講演 1 (山本修一郎教授)

基調講演 2 では、東京都市大学 佐藤真久教授により「SX (Sustainability Transformation) の本質と重要性」と題した講演が行われました (図 11)。SDGs は、同じ社会の中での諸課題の解決ではなく、現在社会とは異なる社会・個人の変容が前提である点、タグ付け型から相互関連、更には価値共創・統合的問題解決ツールと捉えるべき点、そして、正常性バイアスによる“正しさの衝突”を超えていくことの重要性等、複雑な問題の解決に向け、深く本質的な内容を講演頂きました。



図 11 基調講演 2 (佐藤真久教授)

2.6 パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、2名の基調講演者に加え、デジタル技術を活用したソリューション提供を進める産業界を代表してNTT データ (PMI 日本支部会長でもある) 端山毅博士、P2M 研究および普及活動の推進側を代表して千葉工業大学 田隈広紀准教授をパネリストとし、著者がモデレーターを務める形でパネル討論が行われました (図 12、図 13)。内容の詳細

に関しては、パネルディスカッション報告 [1] を御参照下さい。



図 12 パネルディスカッション登壇者



図 13 パネルディスカッションの様子

2.7 閉会挨拶

最後に、亀山秀雄 新会長による閉会挨拶 (図 14)、並びに、次回第 36 回大会の実行委員長を務められる、同志社大学



図 14 亀山秀雄 新会長による閉会挨拶



図 15 次回大会実行委員長 大和田順子教授 (同志社大学) の挨拶

大和田順子教授からの挨拶 (図 15) があり、成功裏に大会を終えることができました。

3. おわりに

大会実行の企画・運営の大役を賜り、不慣れな状況の中、多くの人々に支えられ、大会を完遂することができました。ご登壇頂きました講演者の皆さま、最新の研究成果を発表頂きました皆さま、大会に参加頂き議論を深めて頂きました全ての参加者の皆さま、貴重な経験の機会を与えて頂きました国際 P2M 学会理事の皆さまに、心より感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 岡田公治「パネルディスカッション報告 —SX×DX の相乗効果、P2M との相乗効果—」、P2M マガジン、Vol.18、pp.23-24、国際 P2M 学会、2023

2023 年 5 月 15 日(受理)